

2016年3月期 第3四半期 決算の概要

2016年2月3日
日本ユニシス株式会社



製品販売、システムサービスが堅調で増収 営業利益、純利益ともに増益

(単位：億円)

	第3四半期累計 (4-12月)		前年同期比 増減	
	2016/3期	2015/3期		
売上高	1,889	1,800	+89	+5.0%
売上総利益	448	434	+14	+3.1%
販管費	▲372	▲388	+16	+4.2%
営業利益	76	46	+30	+65.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	45	39	+5	+13.6%
受注高	1,857	1,734	+123	+7.1%
受注残高	2,070	2,093	▲23	▲1.1%

<3Q決算のポイント>

- 売上高
製品販売、システムサービス売上の伸長により増収
- 営業利益
増収効果に加え、販管費削減も進み増益
- 親会社株主に帰属する四半期純利益
営業増益に伴い増益
- 受注高・受注残高
製品、システムサービスを中心に受注高は増加。受注残高はアウトソーシングの売上計上等に伴い微減

【ご参考】 3Q (10-12月) の売上高、営業利益、純利益の5カ年推移 (単位：億円)



UNISYS

1

©2016 Nihon Unisys, Ltd. All rights reserved.

これより、2016年3月期第3四半期の決算概要について、ご説明申し上げます。
資料の1ページ目をご覧ください。

当第3四半期累計の業績は、売上高は前年同期比+89億円増加の1,889億円、
営業利益は前年同期比+30億円増益の76億円、純利益は前年同期比+5億円増益の45億円
となりました。

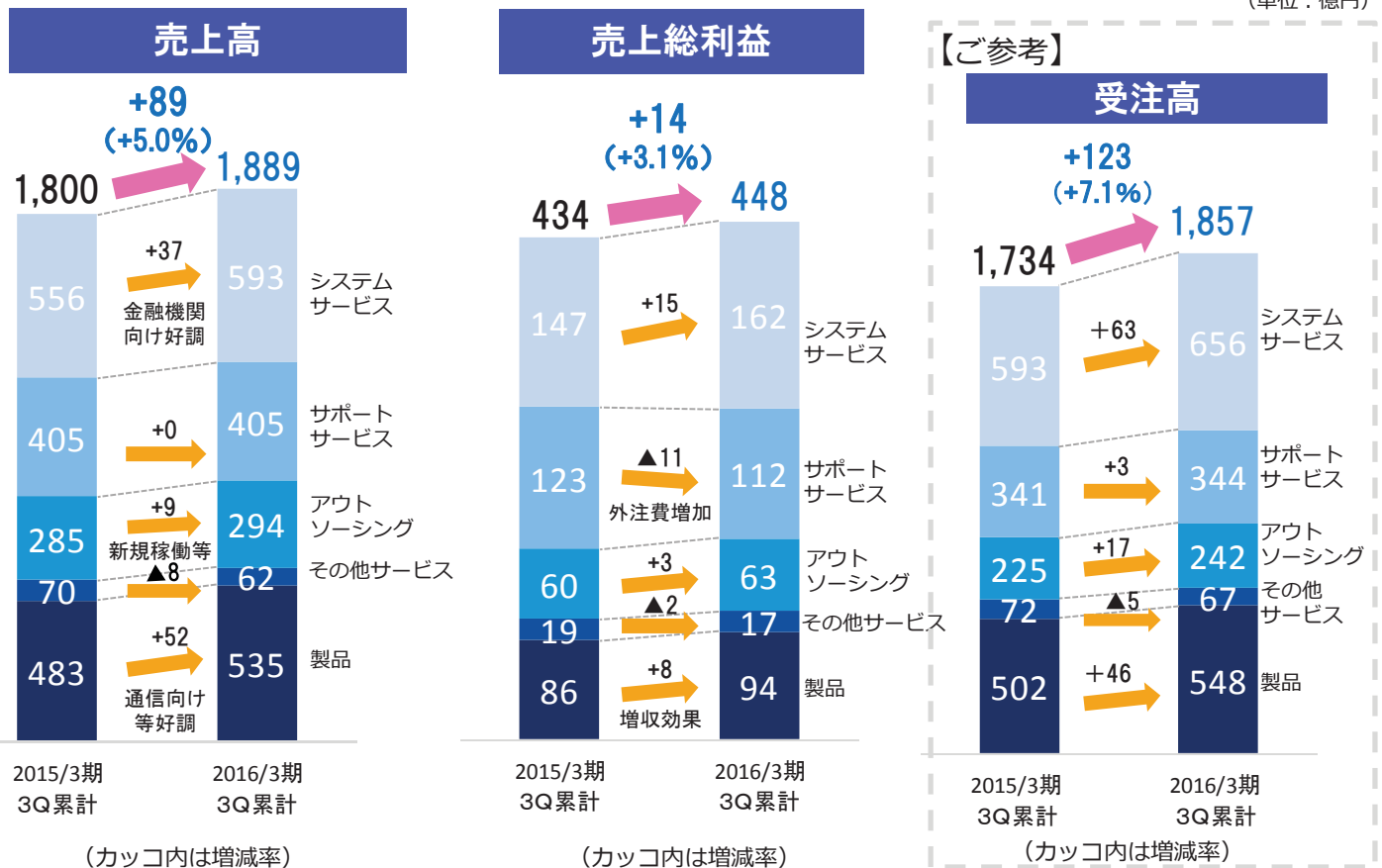
製品販売並びにシステムサービスを中心に売上が伸長したことに加え、
事務所経費等の販管費の削減も進んでいることから、
前年同期比で増収・増益となり、通期計画値の達成に向けて順調な決算となりました。

次に受注高については、前年同期比+123億円増加の1,857億円となりました。
売上同様、製品及びシステムサービスを中心に受注が増加し、
提案活動も活発であることから更なる受注獲得に向け足元の環境は良好でございます。

なお、受注残高につきましては、アウトソーシングの売上計上等に伴う減少等により、
前年同期比▲23億円減少の2,070億円となっております。

また、下段にご参考といたしまして第3四半期3カ月の業績を5カ年推移で掲載しております。
当第3四半期は、売上、営業利益、ともに前年同期に比べ増加しました。

(単位：億円)



続きまして、セグメント別の状況について説明いたします。
資料の2ページをご覧ください。

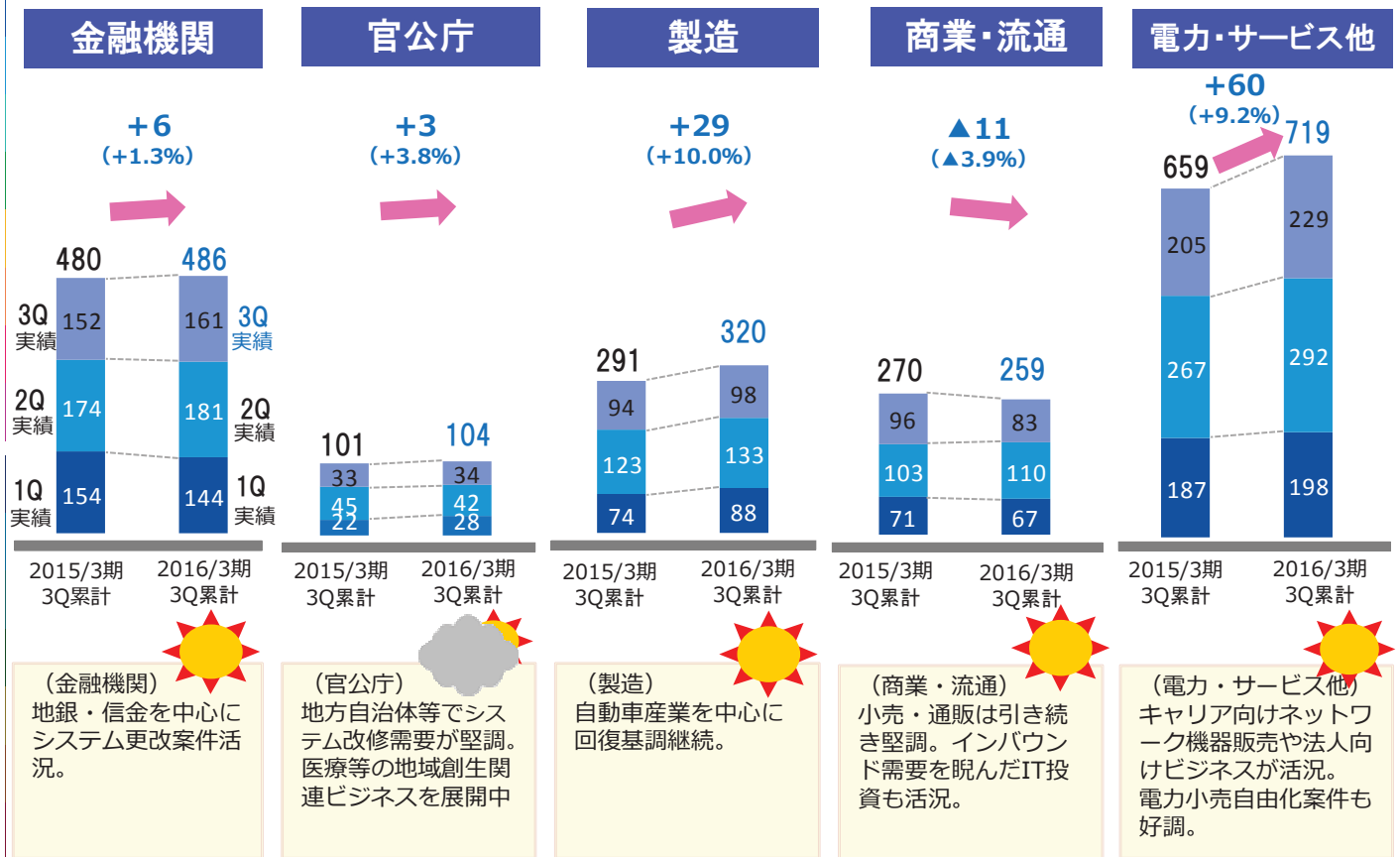
システムサービスは、金融機関及び流通向けの開発を中心に堅調に推移し、増収増益となっております。
なお、第3四半期において、新たな不採算の引当は発生しておりません。

サポートサービスは、売上はほぼ前年同期並みとなりましたが、外注費増加等に伴い利益率が低下しており、減益となっております。

アウトソーシングは、地銀勘定系システムS-BITSで昨年1月から新規ユーザーが稼働したことに加え、中小型案件が増加していることから、引き続き増収増益となっております。

製品は、ソフトウェアの売上が前年同期比で7億円増加、ハードウェアの売上が45億円増加しており、大幅な増収に伴い、増益となっております。

(単位：億円)



続きまして、マーケット別の状況を説明いたします。
資料の3ページをご覧ください。

自動車産業向けを中心に回復基調が継続している製造と、
通信向けのネットワーク機器販売や電力小売自由化に向けた案件が活況である
電力・サービスは、大幅な増収となりました。

金融においても地銀・信金を中心に、システム更改案件が引き続き活況となっております。

一方で商業・流通につきましては、前年3Qで大型案件の計上があった影響もあり
減収となっておりますが、受注環境は良好でございます。

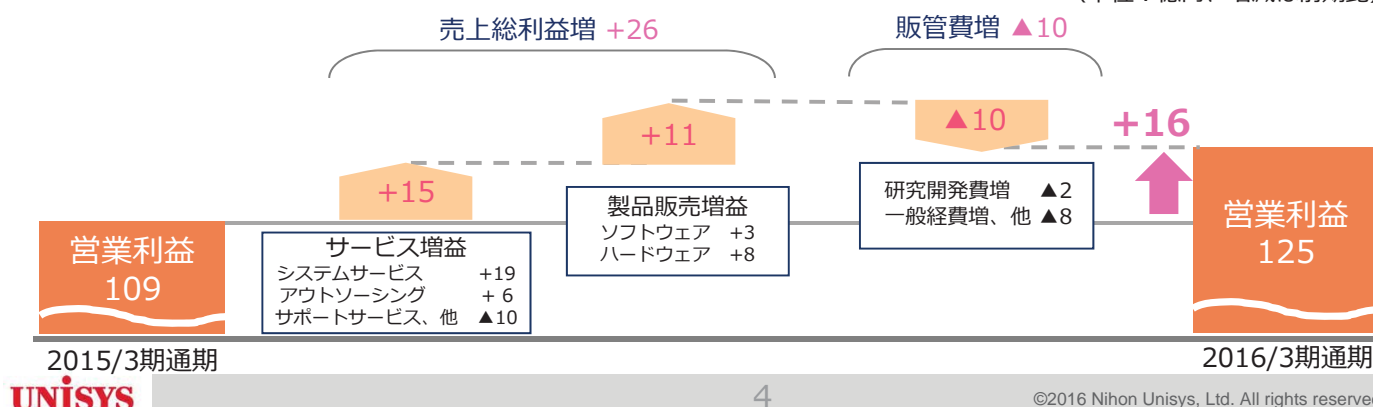
通期の売上高、営業利益、純利益の業績予想は
公表値（11月5日）から変更なし

（単位：億円）

	2016年3月期 通期予想	2015年3月期 通期実績	前期比増減	
売上高	2,800	2,692	+108	+4.0%
営業利益	125	109	+16	+14.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	85	72	+13	+17.3%

【2016年3月期 通期 営業利益の増減分解】

（単位：億円、増減は前期比）



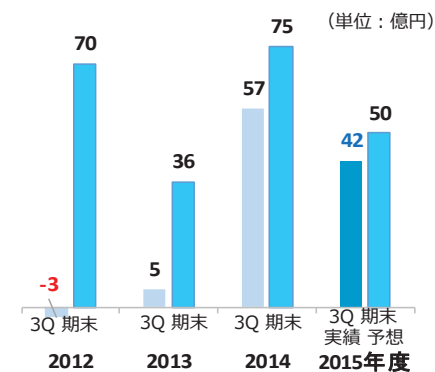
業績予想についてご説明いたします。
資料の4ページをご覧ください。

通期の、売上高、営業利益、当期純利益予想については、
11月5日の公表値から変更ございません。

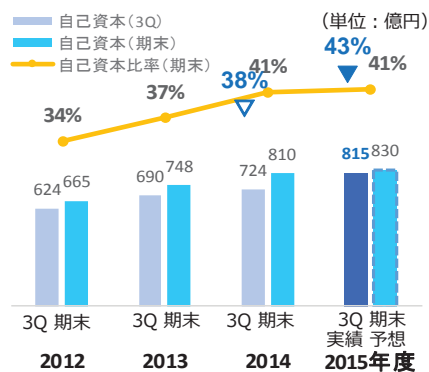
通期の営業利益の増減要因といたしましては、システムサービスや製品販売における増益を見込むことから、前期比+16億円の増益を予想しております。

▼ 今年度3Q実績 ▼ 前年度3Q実績

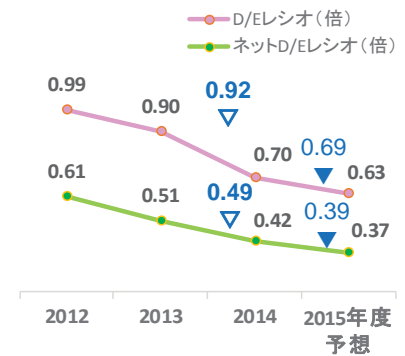
フリー・キャッシュ・フロー



自己資本



D/Eレシオ

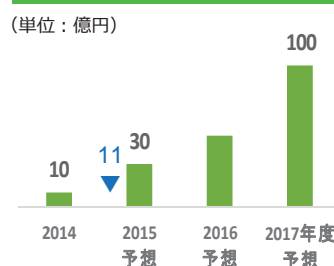


売上高

デジタルイノベーション



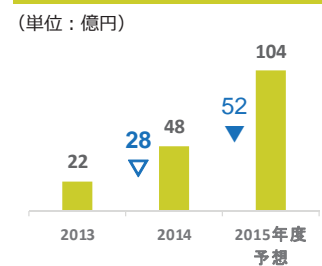
ライフイノベーション



ビジネスICTプラットフォーム



DNP協業 売上高



続きまして、5ページをご覧ください。

ご参考までに財務面では、
第3四半期でのフリー・キャッシュ・フローは42億円のポジティブ、
自己資本比率は43%、ネットD/Eレシオは0.39倍となっており、
財務体質も引き続き着実に改善しております。

以上をもちまして、2016年3月期第3四半期 決算概要の説明を終了いたします。



(注意)

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。